ゴロゴロ通信第77号　2014／09／09　日本ワヤン協会

きつい夏の暑さも多少やわらぎをみせはじめた。思えばこの20年ほど私は夏の東京は3週間前後つねに失礼していた。そんなことからか体調不良に加え、ことしはことにきつかった。日本での各地の災害、中近東、ロシア、アフリカその他でも、テレビや新聞は天地や人間の残虐、不穏をつたえる。地球温暖化？　この世は住みいいところではなくなった？

さて、文化とは。ワヤンとは。

日本ワヤン協会も創立40周年となりました。記念公演として影絵詩劇（ワヤン・ジュパン）の一つ「満月の夜のリムブ」を上演します。またこの秋は東京家政大学博物館による「アノマン使者に立つ」もお見えです。

とりあえず、チラシを同封します。

◎9月27日（土）。主催＝東京家政大学博物館。入場無料

演目「アノマン使者に立つ」

オリジナル＝キ・ティムブル、ジャワ語語り和訳＝松本亮、日本語版語り＝竹内弘道、人形操作（ダラン）＝中辻正、音響技術＝大和田尚

ラーマーヤナの物語中の白眉。ロモの妃シントと魔王ラウォノのきついやりとり、神猿アノマンの超能力、その主人ロモ王子への心遣いなど、さらにはジャワの伝統的ワヤン独特の繊細で、またはげしい人形操作が見られるでしょう。

◎11月8日（土）。主催＝日本ワヤン協会、荒川区芸術文化振興財団、共催＝荒川区

演目「満月の夜のリムブ」

脚本・演出＝松本亮、人形操作＝西山裕美＋松本和枝、語り＝空閑麻有良＋池谷広大、踊り＝稲毛やよい、人形制作＝キ・スカスマン＋中辻正＋梯京子＋ジャワ・バリ＋インドほか、音楽構成＝森重行敏、演奏＝月光楽団（森重行敏、中辻正、小谷竜一、小林賢直）＋村上圭子、音響技術＝大和田尚、舞台監督＝降矢政男、進行＝中村深樹、制作＝疋田弘子。

「わたしにとってこの世でいちばん大切なものは何か」……かわいい太っちょの永遠の小娘リムブが立つ。食っちゃ寝、食っちゃ寝じゃなく、たまにはお前さんの心の一番大切なものを探しに行ったらどうなんだい……口うるさい母チャンギの言葉にハッとして、娘は森へ向かう。ワヤンの代表作の一つ「デウォ・ルチ」を下敷きに、賢いリムブ、鈍な、純真な、はげしい恋の、もの悲しい、向こう見ずの、さまざまなリムブが主役となって現れます。

もともとリムブは道化役ですが、最近のジャワではリムブアンといって、下ネタまじりのふざけが延々3、4時間も続くことが多いのです。この日本版創作リムブには少々りんとしたリムブが登場します。

◎「松本亮コレクション」について

まずキ・ナルトサブド亡き後の彼のワヤン人形のゆくえが気になったのである。数回の法事ごと家族により手放され、無限の美と魂魄に輝いた千体余のワヤンはばらけ、いまはどこへやら。キ・ナルトサブドの約30体を中心にした「松本亮コレクション」はワヤン・クリ、ゴレ、クリティク、ワヤン・バリ、ササク、その他の国の人形で千体をこえるかも。ささやかだが、東京家政大学博物館のご好意に、寄贈作業の進行中である。（松本亮）